

## 「第2次」大津事件

いうまでもなく、大津事件は、日露戦争の前に折から来日中のロシア皇帝ニコライ 2 世に、警護の警官津田三蔵が切りつけた事件である。このときには、今にも日本がほろんでしまうと本気で考えられ、日本中があわてふためいた。児島惟謙が、政府の圧力にも屈せず、憲法どおりの判決を下した。

「第2次」とつけた理由は、大津市と教育委員会と学校と滋賀県警の態度をみていけば、3次4次・・・と次々とあらわれてくるだろうと思われるからである。すなわち昨年10月、中学生が「いじめ」を受けた結果、「自殺した」とされているからである。マスメディアは、「自殺」になんの疑いももっていないらしい。青山さんなど、「**転落死した**」少年と言え、と言っている。今年2月に遺された両親が、市と学校を提訴した。大津市は、自殺といじめとの間に因果関係はない、と約半年間突っぱねてきた。ところが、生徒たちにアンケートをとったところ、「いじめ」を目撃した生徒が多数いて、いじめではなく集団による暴行、恐喝、窃盗、強奪などなどあらゆる「**卑劣な犯罪**」であることが徐々にわかってきて、学校長、教育委員会の教育長のいい加減な態度から、当然ながら遺族は態度を硬化させ、社会も騒ぎ出して、マスメディアが一斉に報道し一気に問題視されることになり、市側はあわてて抵抗する姿勢を翻した。市長のオネエチャンなど涙を流して謝罪せざるを得なくなったが、これも単に選挙を考えてのパフォーマンスにすぎない、とさらに世間の不信を買うことになった。警察は警察で、三度にわたる家族の懇願に対してもなんのかのと理屈をつけて反応さえしなかった。今、自殺かどうかまで疑われているのに、マスメディアが報道すると慌てて積極的に動きだした。もう遅いわい。署長は左遷だろうし、他の連中にもなにがしかの罰を与えるべきだ。・・・市、学校、教育委員会、警察。これらの共通点は、「**隠蔽体質**」「**保身**」である。もっとも事情に詳しいはずの担任の教師は出てきさえしない。まあ、でてきたらみんなに吊るし上げられて、今度は担任が自殺するかもしれないが。・・・まともな教師は飛ばされるし。この国の教育は狂ってしまっている。いつもは口先だけの文部科学省まで動き出した。これはむしろ法務省の出番だろう。

なぜなら、これまでのあちこちの「いじめ」裁判で、理解していた裁判長は皆無で、いかに世間知らずのアホウたちが判決をくだしていたか。その反省の意味でも当局の出馬が要請される場所である。

インターネットには、(小生はみたことがないが) この地域の特殊な事情やら今までの不祥事などについても書いてあるという。だからこの一文には伝聞の部分が多い。

教育長など、あれほど被害者の人権を無視しておきながら、あろうことか「加害者の人権」に言及し、「家庭に問題がある」などと、調べたわけでもないのに堂々と言う。こいつアホか？ これは「犯人のひとり」の母親がヒステリックに騒いだ部分を信じてのことである。これが元校長で、何年か前に交通事故で車椅子に乗る破目に陥った少年を、中学生らがよってこっていじめて「殺した」ときの校長で、このときにはそれほどの騒ぎにならなかったことから、今回も高をくくっていたらしい。ある保護者がいう、「あなたがたは、滋賀県の恥です！」 また別の保護者がいう、「生徒がひとり亡くなっているんですよ。言い訳の前に黙祷ひとつできないのですか！」 さすがに拍手が沸いた。校長も教育長も自分の逃げ道ばかり考えていたことがよくわかる。彼らの「知らぬ存ぜぬ」を子供たちは白けた顔で嗤っているだろう。

犯人たちは、大勢でじゃれていただけ、とこれも判でおしたような言い訳である。警察に言う、オレが許すから「得意の拷問；熱心な取調べでもすればいい。」……猫はじゃれているつもりでも、鼠にしてみれば命がけである。……単にじゃれていたなどという言葉信じる大人がいるはずがない。またいくつかの記事を読めば、じゃれていた、などという次元の問題ではない。ここに書くのも嫌になる、吐き気をもよおすような虐殺としか思えない。

かつて笹川堯議員がなにかの役職についたときだったか、「いじめはなくならない」と言った。すると、マスメディアは鬼の首でもとったかのように騒ぎ立てた。笹川さんは、そういう状態でもいい、などと言ったわけではない。いじめは、学校のみならず、どこにでも存在する。……では、マスメディアはたとえば学校でのいじめがなくなる方向に努力してきたか？ なにかあったときにはしゃぐだけではないか。

それにしても、被害者を終始かばってきた女生徒がいたことは、陰惨なこの事件の中で、唯一の救いではないか。そして生徒たちが、記名してのアンケートに十分に答えたこともまた救いである。

2012.07.26.

その後、全国の学校におけるいじめの様相が変化してきたらしい。(つまり、それだけ、学校も教育委員会も何もしてこなかった証拠でもある。) そうなれば、今回の被害者の死は、日本中に問題を提起したことで、十分な意味を持っている。ご遺族の無念さには、なんの役にもたてないが、あとは最大の問題である「司法」の判断である。きやつら、ほんまに何とかならないものだろうか。……今回以降の裁判は、世間の目があるから、多少はまともな判決が下されるだろうと思うが、なにせあの連中のことだから、楽観視できない。

すぐ翌日にも宮崎県で発生して、この場合は明らかな殺人未遂である。さらにこの馬鹿者たちは、動画サイトに投稿して自分たちの犯行を日本中に曝け出していることである。事の重大さがわかっていない。そしてこのような事柄は全国的にも存在していることがわかってきた。警察も仕事をせえよ。この運動が全国に波及すれば、もうすこしはまともな国家になれるかもしれない。

8月7日、仙台の高校で、煙草の火を腕に押し付けられた被害者が「発覚し」、学校側が何を言ったか? 「他の生徒がこの傷を見て不快に思うから、○月○日付けで『退学してくれ』」。……なんにもわかっていない。苛められた生徒がなぜ退学しなければならないのか? 刑事事件ではないか! こんな程度のが教師として存在していることが、「日本の恥」だということに気付いていない。その方が恐ろしいわ。……こんな連中の教員免許の剥奪ができないのか。……まあ、まさかこんな人格の低い教師が存在するなんぞ、いかな文部省でも想像できなかったのやろね。

2012.08.06.